

吾妻川。鳥川。志戸川。渡良瀬川。等なり。此の間大約二十八里有奇。この下分れて二川と爲る。其の北なる者は赤堀川。關宿に至り再分れ、一は逆川となり。平時は南して江戸川に入る。大水の時は一は利根川の本流を爲し。東流して絹川。蠶養川を并す。これを中利根川といふ。凡十六里有奇。その南なる者は權現堂川。關宿に至り逆川を容れ、南して江戸川と爲り。堀江に至て海に入る。其の中利根川は益大になりて、以下南は下總の手賀沼、印幡沼、長沼等を并せ。北は常陸の大浦、霞浦、浪逆浦を容れ、廣八百七十間許の大江と爲り。凡二十里餘を經、銚子口より海に入る。これを下利根川。と謂ふ。尙小流のこれに入る者數ふるに違あらず。これ其の七十餘里の流を爲し。日本三大河の一を爲して。○註 土地を滋潤し、魚蝦を生育し、舟楫を通利し、人民を裨益する故なり。

〔江戸砂子〕利根川は、上野國赤城山のふもとを經て、下總に至り、武藏の東方を流る也。忍の邊にては上野國の境也。隅田川を武藏下總のさかひと伊勢物語に書しはいにしへの都人など、あづまのはてとてもろこしへもわたる心地して、かぎりなく遠く分明ならずして、武藏國と下總の境に大河ありと聞つたへて、利根川と荒川とを誤たりといふ。さもあるべき事にや。

〔西遊行囊抄〕此利根川ハ上野ノ名所ニ入大河也。或ハ是ヲ吾嬬川共、或又坂東太郎共云。日本事跡考曰。利根川長流而大也。俗號坂東太郎。

〔木曾路名所圖會<sup>五</sup>〕程もなく大河にいづれば、亥ばらく舵工憩ふに、此河はいかなる名ありと問ければ、船匠煙管を喰へながら、これは利根川といふ。水源は蠶養川、あるは筑後川なども落合ふて、坂東太郎ともいふ。坂東の一の流れなれば、太郎は其首と呼ぶならし。兩岸はるかに隔て、夕陽西に傾けば、棹の歌哀に浪による、見るめはこゝろなけれども、黑白をわきまへ、白州にたてる鷺は心あれども、眞砂地にまどへり、平江渺々として落日沈々たり、乾坤碍ずして船は一葉の如く飛んで神崎てふ所にいたる。